

シリアにおいて、ロシアは文明を擁護し、西側は野蛮に与 する

【訳者注】ロシアのこの行動が美しく感動的であるように、それを紹介して解説するこの評論も感動的である。これを見ても、今起こっている戦争が、人間と非人間の戦いであることがわかる。これは映画「戦場のピアニスト」を大規模に実現したような話で、芸術だけが敵も味方もなくする力をもつ。(バッハの“シャコンヌ”という選曲の意味を論者は強調する。) こういうことを全く伝えず、ロシアを、ひたすら野蛮国のように宣伝するだけのメディアは、どれだけ罪を犯しているだろうか。

“アセンション”というものを信ずる人たちによれば、我々を待っている世界では、神に近づくための芸術の追究と、その叡智の究明としての科学だけが我々の仕事だという。これを信ずるか信じないかは別として、そういう観点から、今起こっている恐ろしい戦争と、それに対するこのようなロシアの行動を考えてみるべきである。

The Saker

May 13, 2016, Information Clearing House

パルミラにおけるロシアのコンサートは、ダエシュ (ISIS) の野蛮と西側の冷笑的な無関心に、打撃を与えるものだった。



パルミラにおける最近のロシアのコンサートは、象徴的な意味に満ちた出来事だった。この古代都市を解放したのはシリア人であり、ロシア人はこれを助けたにすぎないが、この援助は重要な意味をもっている。しかも、ロシアが救ったのは単にパルミラだけでなく、シリア

国家であった。ロシアはパルミラにおいて、シリアを救っただけでなく、すべての文明を救ったのだとさえ私は言いたい。

あなたが、宇宙空間から我々の惑星を見下ろしている、宇宙人だと想像してみることにしよう。あなたが見るのは、ダエシュのような肝臓を食うサイコパスによって犯される、口にできない残虐だけではない。あなたはまた、この惑星の大部分を支配する「帝国」と、我々の現代世界を他のどんな文明よりも形成した、いわゆる“西洋文明”が、ダエシュを全面的に支援しているのを見るだろう。

あなたは、アメリカの TOW ミサイルが、ダエシュに立ち向かうことのできる唯一の軍隊に対して使われているのを見るだろう。あなたは、いわゆる“協力国家”（存在する国家のほぼ3分の1）のすべてが、たとえダマスカスにダエシュの黒旗が立つことになっても、合法的に選ばれたシリア大統領の打倒を叫んでいるのを見るだろう。

あなたは、キリスト教徒の集団虐殺が起こっても、キリスト教徒はきっと目をそらしており、ムスリム（非タクフィリ派のすべて）の民族抹殺が起こっても、ムスリムたちはきっと目をそらしているのだと思うだろう。あなたは、自称“自由世界のリーダー”が、（ごく限られた）ロシアのシリアへの軍事介入を、非難しているのを見るだろう。また、地上で最も強力な軍事同盟の一員（トルコ）が、ダエシュと一緒に盗んだオイルの取引によって、何百万ドルのカネを稼いでいるのを見るだろう。

このリストは止めどもなく続くが、これを観察しているどんな地球外人であっても、きっと人類に対する全面的な嫌悪感に圧倒されるだろうと、誰もが考えるのではなかろうか。

ところがあなたは、ただ一つの国——ロシア——が、古代のパルミラを壊そうとした悪魔的な獣から、それを解放する援助をただけでなく、地雷や不発弾を完全に除去し、安全に再建できるようにしているのを見るだろう。そして最後にあなたは、ロシアが自国の最高の音楽家団を連れてきて、単にダエシュだけでなく、ダエシュを創ってけしかけたアングロ・シオニスト帝国によって痛めつけられ殺された人々に、心を締め付けるような敬意を払うのを見るだろう。

私が最も意味深いと思うのは、このコンサートが、ロシアの作曲家による曲目で始まらなかったことである。ロシア人たちが初めに選んだのは、ヨハン・ゼバスチアン・バッハの最適の作品「シャコンヌ」 ソロ・バイオリンのためのパルティータ、二短調 BWV1004 であった。ユーディ・メニューインは、このシャコンヌを「存在するソロ・バイオリンのための最高の構築物」と呼び、バイオリニストのジョシュア・ベルは、シャコンヌは、「単に、かつ

て書かれた最大の楽曲の一つであるだけでなく、歴史上、人間の到達し得た最高の作品の一つだ。それは霊的に力強く、情的に力強く、構築的に完璧な作品である」と言った。

これは決して偶然ではない。ロシア人たちは、人類の最も偉大な作曲家と、彼の最も偉大な作品の一つを選んで、私の考えるところ、人類は、悪や恐怖やウソや殺人だけにかかわっているのではなく、西側文明もまた、最も洗練された、この上なく霊的で美しい芸術を創り出していることを、示そうとした。超越的なバッハの音楽だけが、ダエシュが大量処刑を組織的に行った、この同じ場所に、美をもたらすにふさわしい「声」を代表することができる。そのメッセージは、「あなた方は、文明と、美さえ破壊しようとしている——そして我々は、あなた方にバッハをお届けする！」というものだった。

“精神文明の武器”としてのバッハは、この場合、SU-34 飛行機や巡航ミサイルが、テロに対する“動的戦争”にとって重要なのに劣らず、重要である。

本当は“西洋世界”の一部では決してないロシアが、バッハを、パルミラにもたらしことになったのは、皮肉である。もしアメリカ人がコンサートを行う決定をしたとしたら、彼らは決してパルミラやシリアの人々のことなど、考えもしないだろう。彼らは、アメリカの軍事基地かどこかで、トビー・キースに、米海兵隊を称える曲を歌わせることだろう。

今日ロシアは、文明全体を代表している——西洋さえ含めて。